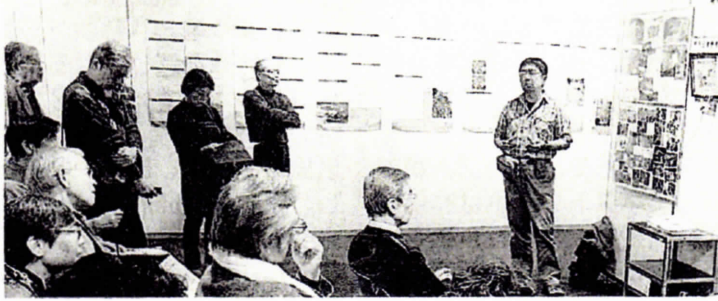


県内の自然保護・環境保全グループ

活動をパネルで報告

厚木でフォーラム



霊園開発による環境破壊を説明する丹沢ブナ党代表の梶谷さん(右) 〓厚木市のアミューアつきで

県内の自然保護・環境保全グループの活動をパネルで展示した第15回さがみ自然フォーラム(NPO)「県自然保護協会」(なご主催)で、展示資料や活動状況を説明する「ポスター・セッション」が14日、フォーラム会場の厚木市のアミューアつきであった。

フォーラムには横浜市、藤沢市、厚木市、愛川町などの各地域や県全域で活動するNPOなど14団体が出展。セッションでは各団体メンバーや県自然保護協会の青砥航次事務局長が資料や写真などを示しながら、保護活動の成果や直面している問題などを報告した。

横浜市のNPO「ホテルのふるさと瀬上沢基金」と秦野市の市民グループ「沢尻丘陵を考える会」は行政や開発事業者の対応に強く反対した。

同基金は、残すべき自然として県自然保護協会が生物多様性ホットスポットに選定した上郷・瀬上沢緑地(栄区)の保全を訴えて活動。同市内で最も自然環境が良好とされ、三浦半島から続く丘陵の里山(谷戸)に、東急建設が大規模な宅地開発を計画していることについて、計画中止と緑地の全面保全を求めている。

考える会は、秦野市沢尻の八国見山南面区域での大規模な霊園開発に伴い、周辺の樹木がほとんど伐採されて尾根や谷の地肌がむき出しになった写真などを展示。メンバーで「丹沢ブナ党」代表の梶谷敏夫さんが、土地利用や墓地経営の許可を含めた開発過程を巡り、県や秦野市の対応に多くの問題点があったことを報告した。

【高橋和夫】